

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月9日

【評価実施概要】

事業所番号	272500802		
法人名	社会福祉法人天寿園会		
事業所名	天寿園グループホーム		
所在地 (電話番号)	〒039-2742 青森県上北郡七戸町舟場向川久保308番地 (電 話) 0176-68-4888		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 9月 25日	評価確定日	平成 20年 11月 9日

【情報提供票より】(平成20年9月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 10人, 非常勤 人, 常勤換算	10人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火被覆平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(9月5日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名
要介護3	6 名	要介護4	8 名
要介護5	4 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88.2 歳	最低 72 歳	最高 103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人藤仁会 工藤病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな田園地帯に囲まれた、ゆったりとした平屋づくりの建物で落ち着いた生活空間となっている。敷地内に温泉を活用した足湯を設置しており、来訪者誰でも利用できるようにしたり、行事を通して地域の方々との交流を持つ事が定着してきており、地域の方からも親しまれている。 職員一人一人が、理念である「みんなの為に」を合言葉に、知識、技術、行動、態度の向上に取り組んでおり、利用者一人一人の意思、考えなどの思いを大切に取組む姿勢が見られた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の開催が取り上げられていましたが、定期開催に向け、9月1日に運営推進委員会を設置しており、10月中に第1回運営推進会議を開催予定し取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価の意義と評価内容の理解のため、職員一人一人自己評価を実施している。評価終了後の指摘事項は、改善に向け話し合いを実施している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議の開催はないが、「ほのぼの広場」や「百人会」など地域の集まりの機会を活用し、出された意見などを参考にサービス向上に生かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
重点項目	1回/月グループホーム独自の広報誌を発行している。状態変化や行事のお知らせはその都度、電話や面会時に報告している。その際、意見や気付きについて聞き取りを心がけ、職員全体で情報の共有と改善に向け取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域交流事業である「ほのぼの広場」の2回/月の開催や、法人主催行事、地域行事へお互いに行き来があり積極的に取り組みを行っている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「みんなの為に(利用者、家族、地域住民等)」という法人理念をもとに、各ユニット毎の目標をたて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1回/週のケア会議では、理念理解と話し合いの中でつまづきがあった際には理念へ振り返りを行い、理念に即したサービス提供を目指した話し合いを実施している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	法人主催行事、地域行事へお互いに行き来があり協力しあえる関係が出来ている。 その他、2回/月、地域交流事業である「ほのぼの広場」が施設内広場で開催されており、それに参加することにより、地域交流が図られている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人一人が自己評価を実施し、理解に努め、評価後の指摘事項などは、会議で話し合い改善に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議の実施はないが、行事などに参加した際に意見を聞き、それをサービス向上に活かしている。	○	今後運営推進会議に向け、9月1日に運営推進委員会を設置し、10月に第1回運営推進会議の開催を予定している。この開催を機に更なるサービス向上に期待したい。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入、退所の手続きは直接役場へ出向き行っている。その他、各会合へ参加することで、役場職員や多職種の方との意見交換ができ、その中で出たことをサービス、質の向上に活かしている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	園内研修で勉強会を開いている。在宅支援センターと密に情報を共有し、必要時には活用できるよう体制整備できている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内研修で勉強会を開いている。又、職員同士の声掛けや態度等対応方法についても日々振り返りが行われ、会議で話し合い、取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時点で、説明、情報収集を実施している。入所の際には、家族と十分な話し合いを持ち、理解と納得を得ている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、広報を発行し報告している。状態変化は都度電話で報告し、日々の様子、行事に関しては面会時、電話、広報の発行と一緒に報告等、個々に合わせた連絡を心掛け実施している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書へ苦情相談窓口を明記している。その他、面会時、行事などでの来園の際には意見の聞き取りを心掛けて実施している。出た内容については、申し送り、会議で話し合い取り組んでいる。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出て行く職員に関しては、利用者個々の精神状況へ配慮した対応を実施し、入ってくる職員は前もって顔出しを何度か実施し、馴染みの関係を作れるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な園内研修を開催している。外部研修への参加もあり、研修終了後は他職員への伝達のためのディスカッションを実施している。関係施設(法人内)での勉強会への参加もできる体制を整え実施している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上十三地区老人福祉協会主催行事や、研修などを通して交流し、意見交換してケアに活かしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人の好みに合わせ、触れ合いの機会(食事やレク)を設けて利用者職員と顔なじみの関係を築けるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員一人一人が利用者を人生の先輩であることを認識できており、季節ごとの習わしなど教わりながら日々に活気を持ち過ごしていただけるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴姿勢を大事にしており、利用者家族の思いを聞き出し、意思疎通困難な人には、家族から今までの暮らし方を聞き、ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族からの意向を、聞き取りを基に週1回の会議で職員間で話し合い、毎月の介護計画を作成している。また、必要に応じて関係ケアマネ、かかりつけ医の意見を聞き作成に努めている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画の作成を行っており、その他状態変化が生じた場合や、新たな気づきがあった場合は、週1回のケア会議で話し合い変更でき体制を整えている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内では在宅支援センター、ヘルパー、デイ、特養と週1回の会議で連携を持っており、散歩、通院、外出の付き添いや、利用者の体調、ADLに合わせたリフト浴の対応などの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意見を聞き、相談できる医療機関及び関係を確保できている。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人家族や医師と話し合い、体調の変化があった都度、対応方針の確認を行っている。それを週1回の会議やケース記録に残し、職員間での情報の共有を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の話を最後まで傾聴する。訴えを受け入れた上で、個々の誇りや尊厳を意識した対応を心掛け実施している。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、食事時間や場所を変えるなど本人の意思、体調に合わせた柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食卓を囲み食事をとっている。準備や片付けも一緒に行うが、参加できない方にも味見や見学など五感を活用して参加できる支援を行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望、体調に応じた時間で入浴できる。不安や羞恥心への配慮をし、時には併設デいの温泉利用やADLに合わせリフト浴対応の実施しており、安心して入浴できる体制を確保している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日により利用者の気持ちや雰囲気が違うので、その時々で自然な形で得意な仕事、作業ができるよう対応している。昔の職業、趣味を参考に再現できる機会を作っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設施設と連携をとることで、施設内の散歩は自由にできている。その他、買い物、ドライブ、行事(花見、地域行事への参加等)へ積極的に参加できる環境を整えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束以外の言動や行動の制限も拘束になることを全職員周知できており、職員の言葉使い、対応での拘束にならないように努めている。 利用者の外出も自由に出来ており、職員は所在確認を徹底している。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠の実施はない。日中の外出は自由で、利用者の所在確認を心掛け実施している。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に日中、夜間の防災訓練を併設施設と合同で実施している。地域住民の協力体制が整っており、総合防災訓練には地域の方も参加し実施できている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を作成、活用し把握できている。摂取量の少ない方へは、好物や時間をずらしての対応を行っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいを基本に実施している。マニュアルがあり、様々な感染症に対して予防を行っている。インフルエンザや食中毒など季節的なものに関しては、発生前に研修を開催し予防に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、時間にあった音(声のトーン含)の使い方、光(採光、遮光)の使い方に注意して行っている。共同空間、居室空間には季節に合った飾り付けや、手作り作品を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物を持ってきていただいている。また、家族等の写真や、作品を飾るなど工夫している。人とのつながりが居心地の良さを出自しており、利用者同士、職員との関係を大切にしている。		

 は、重点項目。